

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 5 月 20 日現在

機関番号：13301

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2011～2015

課題番号：23242005

研究課題名(和文) 仏教儀礼の成立と展開に関する総合的研究

研究課題名(英文) A Synthetic Study of Buddhist Ritual: Its formation and Development

研究代表者

森 雅秀 (MORI, Masahide)

金沢大学・人間科学系・教授

研究者番号：90230078

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 21,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、アジアにおける仏教儀礼の形成と展開、変容をテーマに、さまざまな領域の研究者による共同研究の形式で進められた。参加した研究者はインド学、仏教学、歴史学、人類学、美術史、建築史、宗教学等の分野で、多角的な視点から研究をおこなった。そのための枠組みとして王権論、表象論、空間論、技術論、身体論という5つの研究領域を設定した。とくに顕著な研究成果として灌頂に関する論文集があげられる。代表的な仏教儀礼のひとつである灌頂を取り上げ、その全体像を示すことに成功し、儀礼研究の新たな水平を開いた。また研究の総括として、儀礼と視覚イメージとの関係についての国際シンポジウムを開催した。

研究成果の概要(英文)：This research project focuses upon the Buddhist ritual, especially its formation, development and transformation in the history of Buddhism in Asian countries. The research was carried out in the style of the interdisciplinary joint project consisting of several researchers of various fields: such as Indology, Buddhist studies, history, anthropology, art history, architecture, religious studies and so on. In order to realize the interdisciplinary research we set up five frameworks, i. e. kingship, representation, space, technique and human body. One of the most significant results of the project is the proceedings of the symposium about consecration ritual (abhiseka). This publication has enabled to display the general picture of this ritual all over Asian countries and to lead to the new horizon of ritual studies. As a concluding project we organized an international symposium about the relationship between rituals and the visual imagery.

研究分野：インド哲学、仏教学

キーワード：儀礼 王権 表象 視覚イメージ 空間論

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 儀礼は宗教を構成する重要な要素のひとつであるが、従来、わが国の仏教学は文献学を基礎とした教理・思想に関する研究が中心で、儀礼が研究対象となることはきわめてまれであった。個別的な儀礼がいくつか取り上げられることはあるが、儀礼の内容の紹介に終始することが多く、意味の分析、地域的な広がり、他の宗教との関係などはほとんど明らかにされていない。

(2) しかしながら、仏教儀礼の研究は仏教学のみならず、歴史学、宗教学、人類学、民俗学、美術史学など、他の研究領域とも密接に関わりを持つ。仏教儀礼の研究は、むしろ人文科学のさまざまな分野から強く求められている。

(3) 仏教儀礼は、インドからアジア諸国に仏教が伝播するときに、教理とともに伝えられた。儀礼は教理を視覚化し、実践を通して人々に教えを浸透させ、時として民衆支配の方法としても用いられた。アジア仏教史をつらぬく重要な流れを、儀礼は形成してきたのである。

(4) 研究代表者はインド密教の儀礼研究をこれまで継続的に行い、とくに後期密教の代表的な儀礼文献である『ヴァジュラーヴァリー』の批判的校訂テキストの刊行 (M. Mori, *The Vajravali of Abhayakaragupta*, Tring, 2009) と、主要な密教儀礼の研究を集大成した『インド密教の儀礼世界』(世界思想社、2010) を刊行した。これらの密教儀礼研究を基礎とし、インドにおける仏教儀礼の形成と、アジア各地への展開を解明する段階に至った。

(5) これと平行して、共同研究の形式で、インドの宗教儀礼を扱う他の研究者とともに、儀礼に関する研究を行ってきた (成果として、たとえば Einoo & Takashima, *From Material to Deity*, Delhi, 2005)。これらの研究を通して、仏教儀礼を中心とした宗教儀礼に関する研究において、さまざまな分野に属する複数の研究者による学際的なアプローチが、きわめて有効であることを認識した。

## 2. 研究の目的

(1) 本研究の目的はつぎの5点である。

・ 仏教儀礼を中心に、アジアの宗教儀礼の資料を組織的に収集し、その全体像を体系的に示す。

・ 儀礼一般の理論的枠組みを構築する。

・ アジア仏教史の中で儀礼がどのように形成され、展開したかを歴史的に明らかにする。

・ 仏教儀礼が他の宗教とどのような交渉を持ったかを解明する。

・ 宗教儀礼を中心とした人文科学の学際的研究のモデルを提示する。

(2) これらを明らかにするために、王権論、表象論、空間論、技術論、身体論という5つの研究領域を設定し、それぞれの領域からのア

プローチを行う。

(3) 全体は5つの領域から構成されるが、いずれも特定の研究分野に限定されず、学際的な研究を必要とする。インド学仏教学のみならず、歴史学、人類学、美術史、建築史、宗教学等の分野からの研究者の参画を得て、多角的な視点から研究を進める。

## 3. 研究の方法

(1) 研究期間全体を 儀礼情報の収集と公開、儀礼に関する理論的枠組みの構築、儀礼の伝承と変容の解明、仏教と異宗教との交渉に関する研究、研究全体の統合という5つのステージに分け、段階的に研究を進める。

(2) 第1ステージでは、これまで各メンバーが蓄積してきた儀礼に関するさまざまな情報を統合し、内容に応じて公開する。これらの資料は、これまで個々のメンバーが独自に蓄積してきたが、統一的な規格のもとで一元的に管理し、形態の異なる文字情報と画像資料などを統合的に扱うことで、大規模なアジアの儀礼研究データベースを構築する。そのための作業として、文献資料の電子テキスト化、画像や動画資料のデジタル化等をおこなう。これは研究メンバー全体で共有されるとともに、著作権などにも配慮しつつ Web での公開用のバージョンも作成し、関連する分野の研究者にひろく利用可能な環境を整える。

(3) 第2ステージとして「研究の目的」で示した王権論、表象論、空間論、技術論、身体論という5つの領域から、儀礼に関する理論的枠組みを構築し、メンバー全体でその内容の検討を行う。これらの領域はあらゆる宗教儀礼に適用が可能であり、地域や時代に左右されることがない。また、ひとつの領域が複数の研究分野にまたがることで、学際的なアプローチを可能にする。それぞれのメンバーは、これらの複数の領域を担当し、具体的な事例からの理論化を行い、それを相互に批判・検討することで、より精緻な儀礼理論を構築する。そのための素材として、第1ステージにおいて収集したさまざまなデータを有効に活用するとともに、次の第3ステージ以降で行われる研究の理論的な根拠を準備する。研究期間全体を通して、その検証作業と精緻化が継続的に進められ、最終的に儀礼理論の一般化が行われる。

(4) 第2ステージで構築した儀礼に関する理論的枠組みにもとづき、インドからアジア地域に仏教儀礼が伝播した過程を解明する。第3ステージでは儀礼そのものの受容と変容について、第4ステージでは仏教儀礼と他の宗教儀礼(ヒンドゥー教、ボン教、道教、神道、民間信仰など)との接触・交渉・影響について考察し、仏教儀礼を中心にアジアの宗教をとらえ直す。

(5) 第3、第4ステージと平行して、平成 26

年度より2カ年かけて研究全体のとりまとめを行う。最終年度の2月には国際シンポジウムを開催し、メンバー全員に海外の研究者を加え、研究発表と公開討論を行う。その成果を英文の論文集として刊行する。さらに、研究連携者および研究会に参加した研究者を中心に、仏教儀礼に関する叢書を一般書の形で刊行し、研究成果をすみやかに社会に還元する。

#### 4. 研究成果

(1)本研究は、アジアにおける仏教儀礼の形成と展開、変容をテーマに、さまざまな領域の研究者による共同研究の形式で進められた。個々の研究者による個別の研究をベースに、その問題意識と成果の共有を計るために、年に数回の全体集会を開催した。個別の研究の成果については、次項の「おもな発表論文等」にその一部が示されているので、全体集会の主要なものを以下に述べる。

平成23年度は研究期間全体の研究方針と研究計画とについて討議を行ったうえで、「儀礼に関する理論的枠組みの構築」に関して、連携研究者の西本陽一（金沢大学教授）による「文化人類学における儀礼研究の現在」、「儀礼情報の収集と公開」に関して、高田良宏（金沢大学准教授）による「非文献資料のためのリポジトリ構築に関する取り組み」という2件の研究発表を行った。

平成24年度は5月に、矢野道雄（京都産業大学教授）による「宿曜経と宿曜道」と、鈴木正崇（慶應義塾大学教授）による「中世の戸隠と修験道の展開：『顯光寺流記』を読み解く」という2件の研究発表を行った。さらに3月の全体集会においては、アーニャ・アンドレーバ（ハイデルベルク大学、国際日本文化研究センター）による「三輪山における仏僧と聖の活動：三輪流の儀礼成立を中心として」と、鷹巢純（愛知教育大学教授）による「淵之坊本善光寺如来絵伝について：牛頭天王との関わり」という2件の研究発表を行った。いずれにおいても、インドから日本に儀礼が伝播する課程でのさまざまな文化現象が取り上げられ、汎アジア的な視点からの儀礼に関する一般的な理論の構築を進めた。

平成25年度は、原田信男（国土館大学教授）による「日本の動物供犠」と、蓑輪顕量（東京大学大学院教授）による「日本仏教における法会について：法具・作法を中心に」という研究発表を行った。日本の食文化を題材にした、仏教と在来の宗教との交渉に関する考察や、中国で成立した法会が日本に伝播したときの歴史的背景とその意義などが議論された。

平成26年度は、梶原三恵子（東京大学准教授）による「ウパニシャッドの入門儀礼と初期仏典の受戒儀礼」、田辺勝美（前・中央大学教授）による「ガンダーラ美術と左右尊卑観」、上川通夫（愛知県立大学教授）による「中世天皇儀礼の歴史的位置：近代天皇制歴

史観と前近代天皇制」の発表が行われた。梶原の発表はウパニシャッドの入門儀礼と仏教儀礼の受戒儀礼の関係から、仏教儀礼の成立のプロセスを考察し、田辺はガンダーラ美術に見られる儀礼的要素を、また、上川は日本の中世の天皇制と儀礼との関連について分析した。

これらの研究集会での発表は、おもにゲストスピーカーによるもので、研究代表者、連携研究者を中心とした研究グループのメンバーとの間の議論によって、研究テーマのさらなる深化と展開が見られた。その成果は、個々の研究者の個別研究にフィードバックされ、あらたな研究成果を生むという好循環が実現した。

(2)これらの全体集会とは別に、大規模なシンポジウムを研究期間中に2回行った。

ひとつめは平成23年11月に開催された「灌頂儀礼：王権儀礼のアジア的展開」である。このシンポジウムは、アジアの宗教儀礼の中でもとくに重要な位置を占める「灌頂」に関するもので、連携研究者を含む17人の研究発表が行われ、関係する分野の研究者が国内から多数参加した。シンポジウムでは、インドにおける灌頂の成立と、アジア全域への伝播と変容について、きわめて密度の濃い研究発表と議論が行われ、関係学界から大きな注目を集めた。このシンポジウムは、本研究の初年度に実施され、本研究のテーマ、問題意識、研究の方向性などが、連携研究者はもちろん、国内外の研究者に浸透、共有されることとなった。シンポジウムの成果のとりまとめは、本研究と並行して進められ、平成26年度に『アジアの灌頂儀礼：その成立と伝播（法蔵館）』として結実した。本書はアジア各地で見られる灌頂儀礼の多様性を明らかにするとともに、仏教学のみならず、人文学において儀礼研究が有する可能性を示すものとして、関係する学界から高い評価を得た。

ふたつめは平成28年2月に開催された国際シンポジウム「仏教儀礼と視覚イメージ」である。このシンポジウムは本研究の総括に位置づけられ、以下の4件の発表が行われた。

"The Visual Practices of Buddhism: Ritual Images and the Re-signification of Visual Forms in Medieval Japan" Lucia Dolce（ロンドン大学SOAS 日本宗教研究センター長）

「観経変相と観想との関係について」（山部能宜（早稲田大学教授））

「舍利法と舍利容器のかたち」内藤栄（奈良国立博物館学芸部長）

「修法の曼荼羅としての建築空間」（富島義幸（京都大学大学院准教授））

日本仏教史、インド学仏教学、美術史、建築史学から儀礼に対するアプローチで、とくに「視覚イメージ」を共通のキーワードとして

考察を行った。これは、それまでの研究をふまえて、視覚イメージから儀礼をとらえることの有効性が、グループ全体で共通の認識となったことにもとづく。これによって、今後の儀礼研究にひとつの方向性を与えることができた。また、仏教学における学際的研究のひとつのモデルを提示し、今後の研究に新しい潮流を生み出した。なお、本シンポジウムの成果は、平成28年度中に英文の報告書として刊行を準備している。

(3)研究代表者の研究成果としては、平成23年度に刊行した『チベットの仏教美術とマンガラ』、『エロスとグロテスクの仏教美術』において、儀礼と仏教美術の関係を、チベット、インド、日本などを対象に明らかにしたが、これは本研究を遂行する上での指針ともなっている。また平成27年度には『高僧たちの奇蹟の物語』を発売し、高僧の説話とその図像表現を手がかりに、インドから中国、日本に続く仏教の流れを、高僧を中心にとらえ直したが、儀礼もそのひとつの要素となっている。さらに、平成28年度中に『密教美術の図像学』を刊行する予定であるが、この中でも儀礼と美術との関係を明らかにした論考が含まれている。本研究のとりまとめにおいて重点的に考察をすすめた「儀礼と視覚イメージ」についての、研究代表者自身による問題解明となっている。

(4)今後の展望としては、本研究において明らかになった人文学における儀礼研究の有意性をさらに精緻なものとし、人文学のなかに「儀礼学」とも呼ぶべきものを確立させる。文献や資料にもとづく歴史的研究と、現地調査にもとづく実証的研究の両者を基礎に、学問の領域をこえた学際的研究を進める。また、海外における儀礼研究にも着目し、儀礼に関する国際的な研究ネットワークの構築を目指す。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計24件)

Nishimoto, Yoichi. 2015. Emergence of Lahu Pop and the Formation of Christian Lahu Identity: Ethnic Music as a Cultural Resource. *Waarasaan Sangkhommasaat* 26(2): 147-169. 査読有

山部能宜(陳瑞蓮訳) 2015 「吐峪溝第42窟禅観壁画研究—兼及漢文禅観文献の起源」『敦煌研究』152: 35-42. 査読有

Einoo, Shingo. 2015. Hindu Ritual and

Buddhist Ritual. *Acta Asiatica* 108: 75-92. 査読有

Einoo, Shingo. 2014. Vedic Predecessors of One Type of Tantric Ritual. *Cracow Indological Studies* 16: 109-143. 査読有

高島淳 2014 「Vikalpaの浄化とSattarka: Tantrāloka 4.1-32 和訳」『インド論理学研究』7: 315-341. 査読有

Mori, Masahide . 2014. The Iconography of Cruel Beauties in Indian Mythology. In. *Foundations of Cultural Resource Studies: A Reader*. Eds. by H. Kagami and Y. Yoshida. Kanazawa: Center for Cultural Resource Studies, Kanazawa University, pp. 79-90. 査読無

原田正俊 2013 「「万年山相国承天禅寺諸回向并疏」と足利義満」『関西大学東西学術研究所紀要』46: 17-31. 査読有

原田正俊 2012 「五山禅林生活の変容と文雅への志向」『ヒストリア』235: 112-123. 査読有

松本郁代 2012 「即位勸請と和歌：密教的世界観における芸道と皇統の継承」『中世文学と隣接諸学 6 中世詩歌の本質と連関』pp. 221-243. 査読無

[学会発表](計20件)

高島淳「南インドにおける終末期仏教」AA研フォーラム、2015.12.10、東京、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所

Nishimoto, Yoichi "Home Prayer Assembly among Protestant Lahu in Yunnan and North Thailand" Paper presented at the 2015 Annual Conference of the East Asian Anthropological Association, 2015.11.3-4, Chengchi University, Taipei, Taiwan.

Einoo, Shingo, "An Overview of the Worship of Rudra in Vedic Ritual, Shaivism and the Tantric Traditions: A Symposium in Honor of Alexis Sanderson. 2015.3.26. Toronto, Canada.

Nobuyoshi Yamabe. "Theory and Practice in the Context of Ālayavijñāna: Focusing on Its Physiological Functions", 17th Congress of the International Association of Buddhist Studies. 2014.8.18-23, Wien, Austria.

松本郁代「秘伝の中の須弥山図：仏教的世界観にみる見立てと時空間の構成」同志社大学理工学研究所部門研究第3部門、仏教天文学研究会、2014.6.20、京都市、同志社大学今出川キャンパス。

Einoo, Shingo, Ritual Devices to Become a God in Vedic and Post-Vedic Rituals. The Evaluation of Tantric Ritual, 2014.3.14-16, Los Angeles, USA.

高島淳「ラームモーハン・ロイとタントリズム」第3回 FINDAS 研究会、2013.11.4、東京、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所。

原田正俊「日本中世における将軍・天皇の葬儀」東アジア文化交渉学会第5回年会、2013.5.11、香港、中国。

森雅秀「インド文化における身体」日本スポーツ人類学会、2013.3.24、金沢、金沢大学サテライトプラザ。

原田正俊「足利義満の相国寺創建と仏事法会」平安京・京都研究集会、2012.11.4、京都、京都機関紙会館。

Yamabe, Nobuyoshi, "Faded Paintings and Inscriptions: Digital Restoration in Buddhist Studies", Symposium on Recent Trends in East Asian Buddhist Studies, 2012.9.15, New Haven, USA.

森雅秀「エロスとグロテスクの仏教美術」名古屋美術史研究会、2012.3.10、名古屋市、名古屋大学。

〔図書〕(計 17 件)

森 雅秀 2016 『高僧たちの奇蹟の物語』朱鷺書房、245頁。

森 雅秀編著 2014 『アジアの灌頂儀礼：その成立と伝播』法蔵館、323頁。

松本郁代 2013 『横浜市立大学貴重資料集成II 古地図：地球の形と万国の大地』横浜市立大学、159頁。

森 雅秀 2011 『チベットの仏教美術とマンダラ』名古屋大学出版会、316頁。

森 雅秀 2011 『エロスとグロテスクの仏教美術』春秋社、272頁。

〔その他〕

ホームページ等

Asian Iconographic Resources

<http://air.w3.kanazawa-u.ac.jp>

## 6. 研究組織

### (1)研究代表者

森 雅秀 (MORI, Masahide)

金沢大学・人間科学系・教授

研究者番号：90230078

### (2)研究分担者

なし

### (3)連携研究者

永ノ尾 信悟 (EINOO, Shingo)

東京大学・東洋文化研究所・教授 (H25 年度まで)

研究者番号：40140959

高島 淳 (TAKASHIMA, Jun)

東京外国語大学・アジアアフリカ言語文化研究所・教授

研究者番号：40202147

富島 義幸 (TOMISHIMA, Yoshiyuki)

京都大学・工学部・准教授

研究者番号：80319037

原田 正俊 (HARADA, Masatoshi)

関西大学・文学部・教授

研究者番号：40278883

山部 能宜 (YAMABE, Nobuyoshi)

早稲田大学・文学部・教授

研究者番号：40222377

松本 郁代 (MATSUMOTO, Ikuyo)

横浜市立大学・国際総合科学部・准教授

研究者番号：60449535

鷹巣 純 (TAKASU, Jun)

愛知教育大学・教育学部・教授

研究者番号：00252205

矢口 直道 (YAGUCHI, Naomichi)

金沢大学・人間科学系・准教授

研究者番号：00342048

西本 陽一 (NISHIMOTO, Yoichi)

金沢大学・人間科学系・准教授

研究者番号：00362012